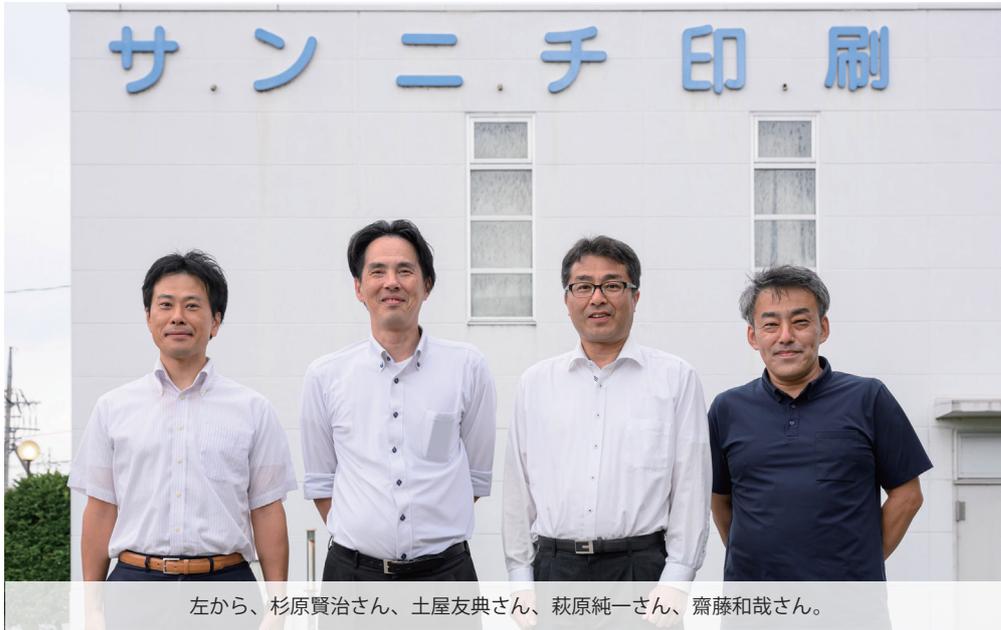


株式会社 サンニチ印刷

創立年：1872年（明治5年）

企業HP：https://www.sannichi-p.co.jp/bpo/

主な事業：商業印刷、デジタルコンテンツ制作、
BPOサービス ほか

左から、杉原賢治さん、土屋友典さん、萩原純一さん、齋藤和哉さん。

毎月8万5000枚の申請書データ化案件を
「fiシリーズ」と「DynaEye」で円滑に処理

総合印刷会社が立ち上げたBPO事業に「fi-8950」と「DynaEye 11」が採用されて活躍中

山梨県甲府市に本社を置く老舗の総合印刷会社、株式会社サンニチ印刷が2024年、新たにBPOサービス事業を立ち上げました。同社が主に自治体から請け負う複数の大規模BPO案件を遂行するため、主軸を担うツールとして採用したのが業務用スキャナー「RICOH fi Series」（以降、fiシリーズ）とAI-OCRソフトウェア「DynaEye」です。本社BPO事業部を訪ね、目下進行中の「毎月8万5000枚の申請書データ化」業務におけるスキャンとOCR処理の実際を詳しくうかがいました。

課題 輪転印刷事業に代わる新規事業として立ち上げたBPOサービスのスタートに際し、高性能な汎用スキャナーとAI-OCRソフトウェアが必要だった。

解決法 スキャナーとして「fi-8950」と「fi-8190」、AI-OCRソフトウェアとして「DynaEye 11」を導入。BPO事業部の立ち上げに伴い順次運用を開始。

効果 ささまざまな紙が混ざった大量の原稿も難なくスキャンできる「fi-8950」の機能と認識精度の高い「DynaEye 11」によってBPOサービスが好発進。新規の大型案件も見込まれている。

「fi-8950」と「DynaEye 11」を導入してBPOサービス事業を新たにスタート

— BPOサービス事業における「fiシリーズ」と「DynaEye」の運用について、工務局 次長／BPOセンター長の萩原純一さん、工務局 BPO事業部長の齋藤和哉さん、営業局 デジタルコンテンツソリューション事業室長の土屋友典さん、営業局 コンサルティング室副部長の杉原賢治さんにお話をうかがいます。2024年4月にBPOサービス事業を立ち上げたきっかけを教えてください。

萩原さん 3年ほど前、印刷会社が持っている技術とリソースを活かして、ふるさと納税ワンストップ特例制度の申請書を処理する事務局業務を自治体から受注したのが端緒です。その後にBPOサービス事業化の検討が始まり、新型コロナウイルスワクチン接種予診票数十万枚データ化の受注を機にBPO事業部が始動しました。このときリコージャパン株式会社の紹介で導入したのが、A3高速・大容量スキャナー「fi-8950」とAI-OCRソフトウェア「DynaEye 11」です。

杉原さん 現在は「事務局運営」「アセンブリ・発送代行」「DX推進」「DMマーケティング」「フルフィルメントサービス」の5分野でBPOサービスを展開しています。「fi-8950」と「DynaEye 11」を主に

活用するのはDX推進分野です。

— DX推進分野で現在進行中の主な仕事は、療養費支給申請書のデータ化とかがついています。どのような業務なのでしょう。

萩原さん ある県の仕事で、1年間にわたり毎月8万5000枚の申請書類をデータ化します。BPO事業部立ち上げとほぼ同時にスタートし、現在6か月目です^(※)。

※取材は2024年10月。

「fi-8950」は「fiシリーズ」のフラッグシップモデル。「自動スキュー補正」や「ステابل原稿検知」など、高度な機能を備えています。



毎月8万5000枚を「fi-8950」でスキャン。 状態の悪い原稿も高度な給紙機能で難なく取り込める

—療養費支給申請書データ化業務の具体的なフローを教えてください。

萩原さん 申請書と添付書類をすべて「fi-8950」でスキャンしてイメージデータを生成します。このイメージデータから申請書だけを抜き出して「DynaEye 11」でOCR処理を行い、「診療年月日」「保険者番号」「記号・番号」の各欄に記載された数字を読み取ります。そのテキストを確認・修正後、申請書と添付書類のイメージデータが紐付いたCSVファイルに整えて納品します。

申請書は受診先別に5種類あり、それぞれのフォーマットが市町村によって異なります。また、多くの場合に申請書と添付書類がステープラーで留められているので、針を外したり、付箋が貼ってあれば剥がしたりする事前作業が必要です。

—毎日何枚をスキャンするのでしょうか。

齋藤さん 一日に1万2000～2万枚をスキャンします。8万5000枚を読み取るために専任者1人が一週間ほど「fi-8950」でのスキャンに専念します。

—「fi-8950」をどのように評価されていますか。

齋藤さん スキャンのスピードが速いことに加えて、原稿の状態に応じて原稿を分離する力を自動で調整してくれる機能と、ステー



段ボールで送られてきた原稿がスキャン専用の一室にたくさん積まれています。



「診療年月日」「保険者番号」「記号・番号」を、スキャン後に「DynaEye 11」で読み取ります。



専用の器具を用いてステープラーの針を外します。付箋が貼ってあれば剥がします。



大量の原稿を「fi-8950」にセットし、次々にスキャンします。

ラーの外し漏れがあると原稿が破れる前に給紙をストップしてくれる「ステープル原稿検知」機能が素晴らしいですね。

萩原さん 半年の間に原稿の破損は1回もないはずです。全般的にトラブルの少ない、優れたスキャナーだと思います。

「AI-OCRスタートアップサービス」の利用で 「DynaEye」に対する知識と技術が深まった

—「DynaEye 11」で読み取る数字は手書きでしょうか。

齋藤さん 手書きと印字が混在しています。「DynaEye 11」は特に手書き文字の読み取り精度が高く、非常に助かっています。

—「DynaEye 11」導入にあたり、「DynaEye 無償評価版」「無償事前検証サービス」「オンライン個別相談会」に加えて、有償の「AI-OCRスタートアップサービス」を利用されていますね。

齋藤さん 無償サービスも利用するたびに理解が深まりましたが、最も大きくステップアップしたと実感しているのは「AI-OCRスタートアップサービス」です。このサービスの利用を機に、当方の知識や技術がかなり向上しました。

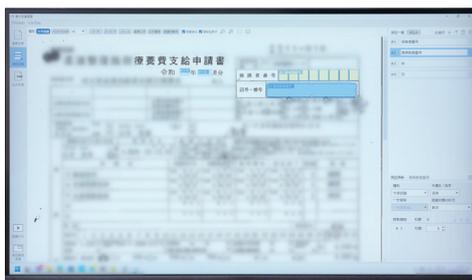
—「DynaEye 11」に対する評価をお聞かせください。

齋藤さん 書式定義などのインターフェイス

がわかりやすく、使いやすいソフトウェアです。AI-OCRを使うと手入力に比べて工数を大幅に削減でき、所要時間が半分になります。

—BPOサービス事業の先行きをどうぞ覧になっていますか。

土屋さん 今後、3か月で20万枚をデータ化する新規案件や、ふるさと納税関連の仕事も見込まれており、スタートしてまだ半年ではあるものの、売上は順調に伸びると見込んでいます。



「DynaEye 11」の書式定義画面。直感的でシンプルな操作によって読み取る箇所を指定できます。



OCR処理中の「DynaEye 11」画面。進行状況がひと目でわかります。

